

議

員定数

34人

これを真摯に受け止め、市民とともに議会のあり方について検討していくべきと考える。

【中村勝吉 議員】



た。

本条例は、公布の日から施行されます。常におく。また、市域は908平方キロメートルと広大で、議員一人当たり27平方キロメートルも担当することになる。市の周辺などでは不安の声も多い。議員は、多くの住民の声に耳を傾け、住民が安心して安定した生活ができるよう努力していくべきと考える。

原案に賛成

【高橋久順 議員】

平成22年第1回花巻市議会定例会（3月定例会）が、2月26日に招集され、3月15日までの18日間の会期で開かれました。この定例会では、議員発議による花巻市議員定数条例や意見書案5件のほか平成22年度予算や人事案件などの市長提出案件の審議を行いました。その結果、すべての議案を原案のとおり可決しました。また、10人の議員が登壇し、市政について一般質問を行いました。

花巻市議員定数条例について、原案のとおり可決しました。定数の検討に当たっては、12月10日に議会改革特別委員会で検討するため設置された「議会改革検討特別委員会」の中に設けられ

た「議員定数検討小委員会」で、市民との懇談会を行うなど約3カ月にわたり慎重に審査を行い、3月10日の特別委員会で小田島邦弘小委員長が議員定数条例を制定することと、議員定数を34人と致しました。

それに対して、7人の議員（山影義一、藤原晶幸、平賀守、藤原米光、伊藤英一、中村初彦、鎌田政須川晋、阿部一男）から議員定数を34人とする条例が提出されました。それに対しても、7人の議員定数を34人とする条例が提出されました。

なお、当初予算審査のために設置された予算特別委員会での主な質疑の内容は、6ページから7ページに掲載しています。

【名須川晋 議員】 定数削減が議会改革と決や市の一体感の醸成のため活動していくかなければならない。また、地域懇談会などで、34人とするべきという意見が圧倒的に多かったことも反映させることを考える。

議員は、地域や市政に対する諸課題の検証・解決や市の一体感の醸成のため活動していくかなければならない。また、地域懇談会などで、34人とするべきという意見が圧倒的に多かったことを反映させることを考える。

【櫻井肇 議員】 現在議論中の議会基本条例では、議員定数を定めるに当たり、単純に他市と比較することを戒めている。また、本市の人口は、今後4年間は10万人以上であることは、総合計画に示されている。さらに、定数が少なければ、新人、特に女性の議員への進出も困難になる。

修正案に賛成

【鎌田政子 議員】

本市は、議員定数を地方自治法で定められており、人口10万人から20万人未満の上限である34人としている。人口を増やすことを願いながら現実には減っていることを踏まえ、人口5万人から10万人未満の上限である30人とすることが妥当である。また、財政力的にもスマ化が必要であること、市民から削減の意見があることも考慮するべきである。

一般会計総額は444億円

平成22年度の一般会計予算、9の特別会計予算、上水道事業会計予算について、一般会計予算、国民健康保険特別会計予算、後期高齢者医療特別会計予算は賛成多数で、そのほかの会計予算は全会一致で可決しました。

一般会計と9の特別会計の当初予算の総額は、計の当初予算の総額は、444億3869万2千円と決まりました。一般会計予算額を平成21年度当初予算額43億5044万5000円と比較すると、3%の増額となってい

ます。また、一般会計予算における性質別の構成比は、義務的経費が228億5089万7000円（51.4%）、投資的経費が61億16万4000円（13.8%）、補助費等そのほかの経費が154億75

充実が不可欠である。国民健康保険については、平成21年度より下がったものの、依然として加入者にとって高い税率がとなっている。

後期高齢者医療については、この制度 자체を認めることができない。

予算総額 710億円に

【川村伸浩 議員】

議員定数を全国の人口類似市の7割以上が削減し、県内13市でも、本市以外は削減か検討中という状況である。また、歳出での議会費の割合が小さいとしているが、合併した一関市、奥州市よりも割合が大きいこと、また、面積についても、本市は森林の占める割合が非常に大きいことから、面積で議員数を考えることは見当違いと考えるこ

る小委員会の報告を行いました。特別委員会では、各委員から「34人」と「30人」にすべきとの意見が出され、特別委員会での採決の結果、賛成多数により34人と決しました。

定例会最終日の3月15日には、特別委員会での審査結果を佐藤忠男特別委員長が報告し、その後、5人の議員（小田島邦弘、照井明子、近村晴男、名須川晋、阿部一男）から議員定数を34人とする条例が提出されました。

それに対して、7人の議員（山影義一、藤原晶幸、平賀守、藤原米光、伊藤英一、中村初彦、鎌田政須川晋、阿部一男）から議員定数を34人とする条例が提出されました。

なお、当初予算審査のために設置された予算特別委員会での主な質疑の内容は、6ページから7ページに掲載しています。

【櫻井肇 議員】 現在議論中の議会基本条例では、議員定数を定めるに当たり、単純に他市と比較することを戒めている。また、本市の人口は、今後4年間は10万人以上であることは、総合計画に示されている。さらに、定数が少なければ、新人、特に女性の議員への進出も困難になる。

会計別の予算額（歳出）

会計名	平成22年度	増減額
一般会計	444億3869万2千円	3.0%
国民健康保険	96億9353万5千円	2.9%
老人保健	61万5千円	△88.9%
後期高齢者医療	16億5468万円	0.6%
介護保険	79億4491万2千円	3.1%
簡易水道事業	3億7580万7千円	4.0%
老人保健施設事業	3億1839万4千円	2.3%
公設地方卸売市場事業	6585万4千円	14.4%
下水道事業	43億1555万7千円	△14.6%
農業集落排水等汚水処理事業	22億429万6千円	△16.7%
特別会計合計	265億7365万円	△2.4%
総計	710億1234万2千円	0.9%